別紙様式３

平成３０年度　【　学園研究費助成金＜ Ａ ＞　】研究成果報告書

学部名　教育学部

ﾌﾘｶﾞﾅ　ヤマダマキ
氏　名　山田真紀

研究期間　平成３０年度

研究課題名　幼稚園における子どもの造形表現活動の日豪比較

研究組織

	氏　　名	学　　部	職　　位
研究代表者	山田真紀	教育学部	教授
研究分担者	石橋尚子	教育学部	教授
研究分担者	伊藤博美	教育学部	教授
研究分担者	飯田恵	附属幼稚園	教頭
研究分担者	山田祥世	附属幼稚園	教諭
研究分担者	杉本文乃	附属幼稚園	教諭
研究分担者	伊藤環	附属幼稚園	教諭

１．本研究開始の背景や目的等（200 字～300 字程度で記述）

子どもが絵を描いたり、砂場の砂で城を作ったり、落ち葉や棒切れを何かに見立て、みたて遊びをしたりするなどの造形表現活動は、子どもの日常生活を彩る大切な時間であり、子どもの感性・創造性を育む重要な活動である。日本の幼稚園の多くでは、「制作の時間」で目標を定めた造形表現活動を組織的に展開するとともに、「自由遊び」のなかでも、自由な造形表現活動ができるようにしている。一方、オーストラリアの幼稚園では、園児全員で取り組む「制作の時間」はないかわりに、「アートコーナー」と呼ばれる「いつでもどこでも造形表現ができる場」が必ずある。本研究では、参与観察を通して、子どもの造形表現活動をめぐる日豪の環境の違いは、子ども達の造形表現活動の在り方にどのような影響を与え、ひいては子ども達の人間形成にどのような影響を与えているのかについて明らかにすることを目的とする。

２．研究方法等（300 字程度で記述）

本研究で用いる研究方法は、日豪の保育施設における参与観察である。

①園全体（クラス全体）の造形表現活動の時間的・空間的な構成について調べ、ある特定の 2 日間において、日豪の幼稚園で、いつ・どのような目的で・どのような造形表現活動が展開されているのか・子ども達はそれにどのように取り組むかについてデータを収集することと、②ターゲットとする園児数名を選び、ターゲット園児が特定の 2 日間に、いつ・どのような文脈において・どのような造形表現活動に取り組み・それはどのように終結していくのかについてデータを収集する。また、③日豪の幼稚園で、保育者が園児の造形表現活動の意義・意味をどのように把握しているか、どのような目標と意図をもって園児を指導しているのかについてのインタビュー調査を行う。

３．研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

平成 30 年 8 月にオーストラリアのシドニー市にある 4 つの保育施設（公立保育園，公立幼稚園，私立保育園，私立幼稚園）において 6 日間の終日の参与観察と，保育施設で働く 10 名（3 名の園長と 7 名の保育者）を対象にインタビュー調査を実施した。その結果明らかになったのは以下の 2 点である。

第一に、オーストラリアでは自由遊びのなかに造形表現活動がたびたび登場し、観察者からは偶発的な出来事のように見受けられるものの、そこには子ども達が主体的に造形表現活動に関わってみたいと思わせるような意図的な環境の設定と、そこで展開される造形表現活動のなかに、保育指針との関連性（この活動は保育指針のこの部分と対応している）、関与する子ども達の発達課題（この活動を通してこの子にこのような力を育てたい）ということを意図し、言語化し、記録するという地道な努力がなされていた。特に 2008 年に全国統一の保育指針（Belonging, Being & Becoming :The Early Years Learning Framework：EYLF）が制定され、「活動－指針—個別の子どもの発達課題」の 3 者の紐づけが徹底されるようになった。

第二に、オーストラリアでも、幼小連携が政策課題となっており、2008 年に小学校への連接をスムーズにするための「幼児教育プログラム Early childhood education programs」が義務化されたが、それは、アルファベットや数字を覚えさせるのではなく、遊びを基にした学び play-based learning と，STEM や STEAM（S:Science,　T:Technology, E:Engineering, A:Art, M:Mathmatics）の導入という方法でなされている。造形表現活動もそのなかに戦略的に位置づけられており、子どもにとっては何げない絵画遊びも、保育者にとっては、その活動に科学・テクノロジー・エンジニアリング・数学・アートの概念の萌芽を見出すべき働きかけを行うことが求められている。

設定保育ではない、偶発的で即興的な造形表現活動のなかに「意図と意味」を見出していくことが、保育者の専門性であると捉えられていることが分かった。

４．キーワード（本研究のキーワードを１以上８以内で記載）

①オーストラリア	②保育	③造形表現活動	④参与観察
⑤	⑥	⑦	⑧

５．研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

山田真紀・山田祥世「オーストラリア NSW 州の幼児教育の現状と課題—参与観察と保育者へのインタビュー調査から—」保育学会紀要（平成 30 年 11 月投稿済。現在審査中。）
山田祥世「幼児主導の制作活動を促進するにあたり,「戸外アートコーナー」の充実と教師の指導能力向上のために何が必要であるか—オーストラリアの幼児教育調査から—」私学研修福祉会平成 30 年度海外研修報告書。
伊藤博美「保育・幼児教育における表現活動に関する考察」椙山女学園大学教育学部紀要 12 号（現在校正中）